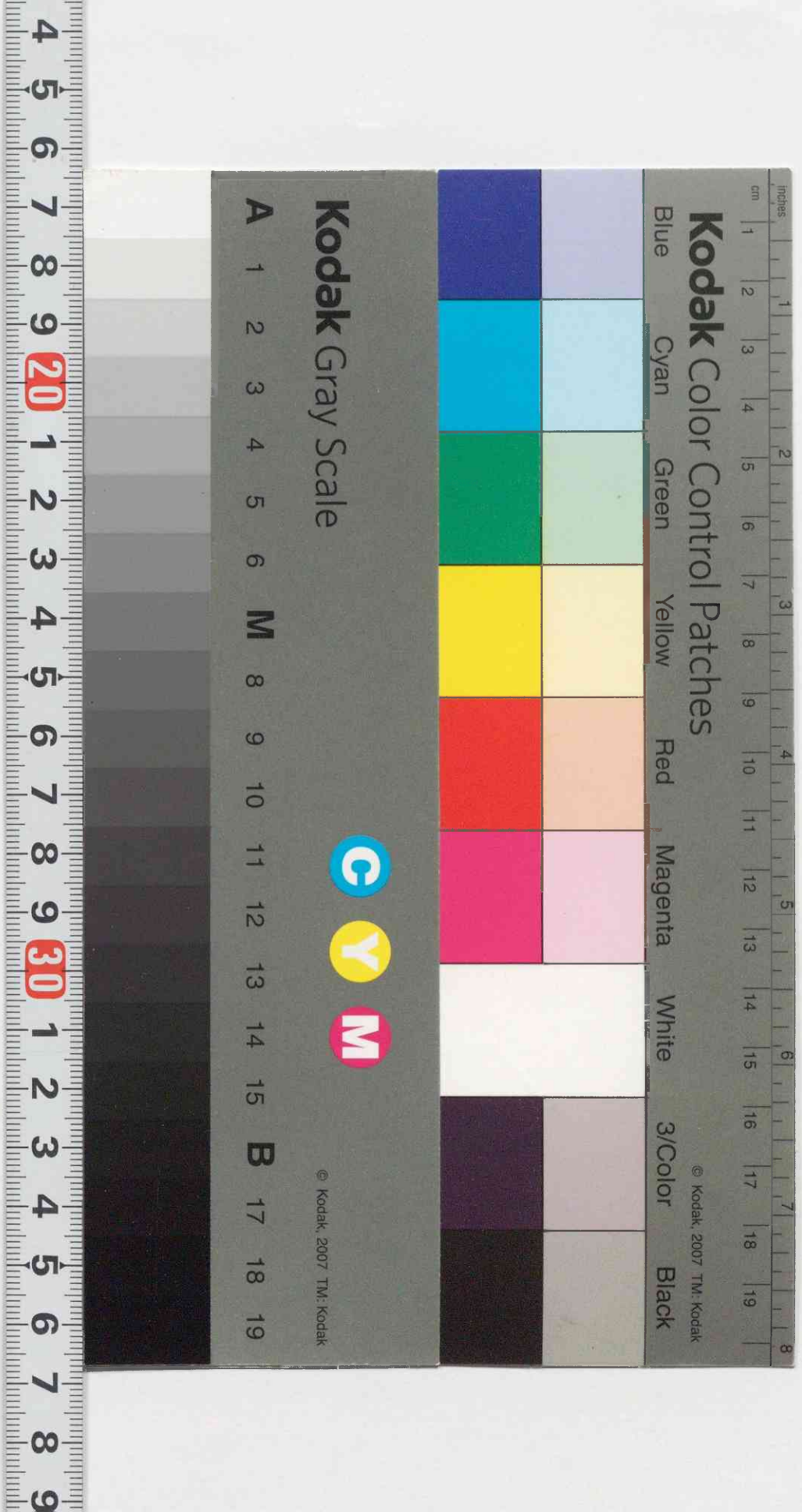




南總里見八犬傳第三輯卷之三

東都 曲亭主人編次

第廿五回

情を含く濱路憂苦と諒み
奸成告て額藏主家小還す

再説墓六へ水小溺れしやめし。飽やが信乃は抱き且眼を
開て。抗足を動しやめし。如扶起されく自脈を診り。
かてられ再び生る。危うしと傍ある。柱小携し立あられ信乃ハその
本復の速るを驚びく。俱河辺の小屋をわれば土太郎ハ左母二郎を
果せし船をよるえよせり。當下信乃ハ遽く。單衣を被て刀と腰小
さう程又左母二郎ハ墓六がを携し船は乗せその恙あらと祝するに
或ハ水中の動作を同或ハ其の苦難を告て果て笑聲高くたのしむ。

とく岸を離るるめく。前には又燃えつゝ。再び細をちりちりかく。軀を
前面小著させく。獲の雑魚を魚番は移させ。なほ不餘れるを。後條の
枝小母見せ。これに蒼竹の真中。小括提信乃と左母二郎と。それ本
末を相携。六六六の二人を先は。腰巾著を搔揚々。多少ハ
あふ。土太郎は紙捻を。取。今宵の苦銭。この土太郎ハ
河船の備載。あ。生活は。一知不住の癖者。あ。豫々
六六相譚れ。信乃を亡え。つ。か。この二人ハ一町。あ。先ハ
信乃。信乃ハ。折。何。密語め。又。先。二人を
遙小後方。を。後。待。六六。走。来。
うち。連。家路。は。十七日の月。出。戦。青田。風。渡。
夜行ハ。殊。涼。く。相譚。々。信乃。六六。信乃。は。あ。

今宵の怪我ハ生涯は復あ。不覚あり。龜條。小。あ。か。
あ。魚。を。秘。と。真。中。
口を。既。庚申塚。の。近。く。復。一。物。を。背。負。て。
前面より。あ。引。提。挑。灯。ハ。給。く。あ。奴。背。め。て。
と。六六。あ。あ。て。や。遅。かり。と。向。ハ。背。め。
小腰を。折。割。籠。の。准。備。せ。故。又。時。を。殺。と。い。は。せ。と。
あ。眼。を。睜。し。噫。鈍。や。白。物。們。が。出。と。死。炊。云。云。と。い。ひ。小。例。の。
籠。耳。脱。せ。今。あ。て。あ。何。あ。せ。んと。陽。腹。と。く。皆。共。侶。
里。小。還。ま。あ。時。ハ。過。さ。あ。左。母。二。郎。ハ。六六。を。そ。門。邊。で。送。り。
夜の深。さ。れ。と。裡。面。ハ。入。と。信。乃。も。叮。嚀。別。を。生。口。翌。の。啓。
行。を。祈。る。あ。宿。野。へ。あ。去。ぬ。六六。ハ。奴。婢。一。兩。人。呼。起。させ。

獲の雜魚を肴とて烹て焼く。程小龜條が盪る酒より此より
ふ件の奴婢と就寝く夫婦ハ信乃を納戸に招く。許我までの後者
少額藏を遣せしむ。或臥る或呼よせしむ。饗食心態の酌を執
らせ此彼四人團坐し。苗別の盃を渡りけり。既に酣る比小龜六ハ
龜條く。百匁あまりの銀より出させ路費し。信乃は處ある。その
真方ある。よろづ年来より似るべくあまをさて路次のる。許我へ
てのふたれ成うち相譚ふ。夏の夜の短く。なや丑三よりぬべし。
雲時へとも目睡く。丑五の道中堪が。かんとく。睡り更と。小龜條が
言の成式より。信乃額藏ハ告別し。おのどく。臥房よりぬ。ぬ。ぬ。
と。奴婢ハいれ。て。皆熟睡せ。る。も。なく。濱路さ。痞。瘻。り。ぬ。と。く。
甲夜より子舎に臥る。當時小龜六ハ神宮河より熟討く。信乃を水中に

誰入れし。その事の趣を龜條に密語ハ。龜條耳を傾く。笑々ゆくと
半晌なり。応へ。え。え。と。点。影ハ圓行燈の。玉の月。跳る。鬼ハ彷彿し。かく
耳語ハ。墓六ハ乾る。唇甜濡し。これ復船に乗りし。と。左母二郎が目を
注ぐ。既よその意成。ち。せ。し。渠ハ必定彼宝刀を。搦。替。し。る。疑。ひ
あり。丑五より待し。ぐ。れ。一見せんと。燈燭を。や。を。う。ほ。と。と。へ。引。し。め。く。
琤。緩。く。振。放。し。夜。目。あ。れ。ハ。焼。刃。の。色。定。う。め。く。う。め。く。現。鏡。刀。と。お。ぼ
し。る。輕。の。内。より。水。滴。り。く。席。薦。の。上。に。置。く。露。を。墓。六。ハ。疑。ひ。く。振。し。
又。の。鯉。に。く。奇。あ。る。か。この刀。振。放。し。ハ。水。氣。あり。殺。氣。成。合。て。く。ら
振。れ。ハ。降。る。く。雨。は。異。あ。る。と。ま。の。奇。特。あ。る。ふ。より。村。雨。九。と。名。つ。け。く。と
し。年。来。使。け。い。も。又。今。呼。し。ふ。と。呼。め。く。奇。ん。と。賞。嘆。し。そ。乃
雷。を。い。く。遍。吹。指。し。流。し。額。は。塗。ま。く。夫。を。見。ま。の。小。龜。條。も。物。体。あ。や。と

あはれ著る物もれ糸紙巻く息を吹れ引ちりる盃盤をとり納
め共侶小臥房小入る程もあつた射の声ぞ高かりけるる絶小信乃臥
房小入る時成待はいも移るまにわたりけり久後をいふおれ
印を誰ハしめめ父母の墳墓小今ぞ遠離る里の名残のいと惜れらる
おちど真砂路の濱路ハ臥房を脱出く竭ぬ恨をいりりも納戸の射ハ二
親の目見えぬ程ふとわのせられ逢ぬかふさる度憚の関の戸乃音
たてさせし國踏む膝ハ戦て定めあれ浮世と云ふ形も悲しくつる
恨れ郎の枕より近づけ信乃ハ事人ありと云ふ刀を引よせ岸破と起
誰やと問ハ音もせど原來癡者こさんあることか寐息を穴窺ふく刺
殺さる小軟と疑ハいり由おせど行燈の火光さう向けく熟視まづ
濱路あり端ありは進まづ蟬の後方小伏沈む声ハまゝと哽咽る涙小

外をあらぬ掛簾れ苦しと唧め強敵を懼れざる壯客あがうち驕る胃を
徒め蟬を虫釣緒を解け臥簾を片よせ濱路ハ何本の所要ありて更
閑なる臥も甘むあハ迷ひ来りり瓜田ハ杏を容む李下小冠を正
さどといふ諺あり成るやと咄ま限け小涙を拂く頭を奉何小来
つと外へあつたつらまづ小形あれ妹妹ハ名のと糾纏の化結ある中あれ
あつ宣ふも之理あり後と一旦親の口より許しり夫婦あはれや日来ハ
とまれかゆわれ今宵限りの別れと告あせめあふともあふ力の恥はたさ
おれ小生くゆくまてあふ小只下言の捨言葉かけめハねハ情あり公つ
一と怨むと信乃ハおれを歎息し人木石小あふされハ有懸小情と云ふ
つゆ嫌忌の中小力を措故小口を開れ告るよりあふあふ力が誠ハ
えまろこ胸中をあらわす人許我ハ僅小十六里三四日又往還と云ふ

信乃
を
惜め
影のね乃
すあさこの
あつても
あつても



かゝるものも形あるが才も乏しうのなるふひ絶く節り付らん。さう
道中恙なく折々烈々日やけせど許我へ糸より名を揚家を興
く冬籠北山下風吹くころ風の便ふをせくぐん筑波の山のこゑふ
恙もあて君もいとあつめゆきゆりてん今より弱々玉の緒のこゑあ
これをこの世のうらと憑むひやごえぬ冥土の二世の契ア必よ成あろ
変とせめあゝ墓あるを木綿袷拭てぞ契願言ハ怜惻んえても
恍惚子なる未通女うらの哀れあり。信乃も有繫ふうち芝折れ慰め
うらと点流のこゑ又いなりもあつめけり。折々告る八声の鶏小信乃ハ心を
うの同ある二親めさうあつめんとくといそぐ。まゝ濱路ハさうを
まゐり。天も明ハ孤々啖うん腐鶏の末明は鳴く伏を遣や。それハ恋せし
草まゝ。是ハ旅中妹妹のこゑと鶏も鳴く。天も明ハ曉る人の目も

覚へ恨みの鶏の音や。ふ逢坂のあつめあつめゆきぬ関ハさう人ハ在
明の月を果敢るれと口実や先とけふ外面小咲く障子とほろろ
うち敲る鶏が謡うこゑふ。いまも覚められやと起る声ハ額蔵の信
乃ハゆれく遠く。成程は額蔵ハ苞福のこゑ退れり。疾この隙ふと出
遣る。濱路ハ臉泣腫一箇れり。うらとく涙と涙霞む挾山形紙張の
壁の身をよそく。あつめ臥房ハ泣く。現悲しれハ別より生別ふ。それ
あ。吁早あるか。この未通女ハさう鴛鴦の衾を思ね。連理乃枕を
並べ。さう情百年の夫婦ハ勝る。今も信乃ハ情小引き。その公成
動さう。それ情小後入る男女別ある。越成は。夫色界の迷津ハ賢不
せむ。湖許の少年輩。さう。この岸ハ臨く。渾る。あつめ
少。今この美夫節婦あり。濱路ハ恋慕々。樂々。淫せんとふ

あゝと信乃が嗟嘆ハ悲し傷を濱路が情ハあふ得べし信乃が娘ハいよ
いよ稀に同計休題この曉天額藏ハいよか起す火を打水を汲炊
れろと信乃は飯を勧め已もたうて共侶小行装束程小奴婢ホ大
く起さうかて信乃額藏ハ支度形のぬく整ふあゝ夫婦が言ふあまふ
明六の鐘ハあゝと夫婦ハ宿酒醒まやありけんいよ臥房を出るけり
信乃ハ二の朝涼と心いそがのせもれど一言半句も辞せざりて出て西へ
さへゆく臥房ホまよあもん目を覺し多や只今度足はまふあ
暇をよと信乃もい覺るやと声高かふる見せむ墓六ハ夢
ろろ小ゆれぬと応けり信乃ハ再び声あをさく伯母ハいよと覺る
まや信乃が度足の暇をよとありいよとゆまゝ龜條腹惚し声あを
ゆれぬと応けり信乃ハ応を安果る外面ホ退く濱路ハ有敷小は

顔を入小見られんよとまよぬも細小障子を向て目送りし辞ハ
絶く酸鼻む妻小別々旅衣今たち初信乃額藏を送る奴婢ホ忙忙
背ぬろ共門ホ出衆皆名残を惜まむ祝し霎時散動れ危る宿小
幕六龜條ハ昨夜深熟酔る寝小就るあゝ朝日高く昇るは
る小起ぬ信乃ハと回ハ云云と明六の鐘ろ共と啓るあゝと
奴婢ホ生る小果果と夫婦目と目をありしゆり小けりとあゝと愧
色をく古くもさあゝとあゝとあゝとあゝとあゝとあゝと信乃
亦不敬し荷且まゝ起行小告別せぬとやあると高声合しと敦圍ハ
彼人ハ臥房ホ立上ると云と告るいよゆれぬとあゝとあゝと
とあゝとあゝとあゝとあゝとあゝとあゝとあゝとあゝとあゝと
奴婢何ハあゝとあゝと信乃がさういふ取持貞子とさうゆれぬと云

遍掃出。門へ塩花揮ふ。やと囁著。如死坂東訛。噂さ。青嵐鳴子の音。群雀驚く。命燈より。中ノ濱路の。この日。病臥。臥房を。心持死ぬ。べく。あむる。著る。ある。二親。ハ。養老。女児。死。て。さ。ぐ。入。宝の山出世の。標中。絶人。鍼。藥餌。と。謀。これ。女児。使。愛。あ。勢。と。利。就。ち。の。せ。祈禱。親の。慾。を。無。慙。る。時。は。文明十年六月十八日の。朝。小太塚。信乃。ハ。年来の。志願。か。る。時。到。額藏。を。下。送。る。許。我の。所。赴。人。と。この。年。信乃。ハ。十九。歳。額藏。ハ。廿。歳。折。二の。兩雄。ハ。既。小同盟。合體。義。を。結。ひ。誓。を。立。艱難。與。相。救。ひ。苦。樂。を。等。し。せん。と。の。ろ。信義。の。郷。あり。身。ハ。亦。汚。吏。の家。在。人。目。を。睦。か。額藏。ハ。信乃。を。識。信乃。ハ。額藏。を。肩。と。せ。この。故。奸。智。ハ。長。さ。墓。六。も。孤。疑。又。龜。條。也。と。額藏。疑。を。密。

諷の席。も。信乃。ハ。此。度。信乃。ハ。許。我。中。後。者。不。と。遣。せ。不。謀。る。る。あ。れ。あ。り。か。れ。信乃。ハ。額藏。が。資。と。る。害。を。脱。と。異。小。夥。の。年。を。送。れ。この。行。ひ。易。れ。と。似。甚。難。う。假。漆。の。不。行。ふ。心。あ。ぬ。作。る。色。小。出。辞。小。洩。く。遂。あ。り。め。あ。り。小。嫌。忌。の中。ハ。九。年。それ。と。人。小。曉。ら。と。久。智。術。の。致。を。所。と。も。その。信。の。義。を。神明。監。と。天。の。祐。あ。る。せ。バ。い。け。あ。つ。と。あ。ん。さ。バ。額藏。ハ。この。年。来。竊。信乃。が。藏。書。を。借。る。經。籍。史。傳。兵。書。の。類。を。あ。と。れ。と。懷。め。又。あ。つ。と。草。龍。の。底。藏。り。草。野。小。出。山林。小。入。の。傷。小。入。の。折。を。讀。諸。せ。と。い。と。唯。文。事。の。と。木。を。伐。る。と。斧。成。り。大。刀。を。試。草。を。刈。と。新。駒。より。踏。く。自然。小。騎。馬。を。習。得。る。と。人。と。成。と。但。それ。

童子の孝
 威え
 旅魂
 席食



大権現
 願主

女大権現
 願主



衆人渴仰の応報あることと惑ひつゝ崇あうせんとや思ひん。うめ禿倉へ建
とれ銭を出しつゝ莊客們は米一俵宛とせけり。寔は額藏が計る所。点
違はしと。母の墳塋を喪ざるの事。遂は田中は厩食を亡塊の飲ひこふ
推量らんと感あらず。是はこれ三尺の童子の智慧に成るものなり。亦孝感
のこのづから。あふむ。む。抑この一奇異ハ信乃が八房の梅と同日の
談ゆ。事ハその前年ハあり。さる年今。うめとこ。小説出せるは。是より。後乃
物語。よく額藏がうす及べはる。題は問話再説信乃ハ行婦の墳の事。
豫へ使けとも。今。母の薄命。その子の孝感。こ。ハ不及と。あふむ。
額藏を先は立ち。共侶は頼をつれ。祈念の中。懐舊の涙を禁めか。松より
ける。かく。あふむ。は。あふむ。は。西人齊一身を起し。思ひ絶て。こ。鳥の巢
鴨を左邊小見久。と。跡ハ濁さぬ石神井の流は。添ふ。西个原田畑を過る

夏あつの雨あめも遅れく兼輪みわの坐まをり石濱村いしはなむらに舟ふねもちて。稍さううち渡る墨田河すみだがほその
樹下このもとの涼すずしめ雲時あやぐしとてそ柳嶋やなぎがしまの下総あづまと人ハゞどる度遥とろろある許我こがの里
今宵このよの宿むすりしそけり。さる程ほどふ信乃額藏のぶがくざうハこの日十三四里いひよりの路ちみちを走はしりて。
栗橋くりはしの驛えきは宿むすとりつ。この如ごとより許我こがの里へその途四里よちよりハ足たぎざりける。り莊
官かんが人をひとと跟おきつるものやと豫もく之ハ途みちもさう聊いささかも雑談ざつたんせぬ。あゝとも
あふあつまで疑うたがへたとてさう幸さいわいあり相宿あいむすの旅客たびやくもあると一いつふ兩人心ふたりこころを安
くして絶ことえ久ひさし閑談けんたんは共とも長途ちやうとの疲勞つかれをおぼえも當下信乃額藏そのとききののぐざう
神宮河かみやがの支えの趣おもむき幕六まくむが為体ため土太郎どたろうがるさん。ちちもあく告つえうぞ額藏ぐざう
小頭ことうを傾かたむけそ入水いりみづは假托かりたくと和君わきみを亡なんなく謀はかまつるさん危あやう
驚嘆きやうたんも信乃又且またく尋思じんしハ害心がいしんかくのどくるゆ又何またなんれの故ゆゑありと
彼人年米懸念かれねんまいけんねんせし室刀むろたちのる戎多えびたひ絶ことえ。こと成バ許我こがへ遣やるやん。さう只

さんふこの時ち。事成らば娘さるを賜んとまぐ宣はさる仰ふなり。これらふ。命も絶く惜ふも適為課せゆんと真一を不諾ひく。伯母の前。此大くさる。あつらん。六女が折る腰は帯る刀ハ切味なり。此此。父匠作大人護身刀おせよう。こふ小賜る短刀あり。桐一文字と唱へ。鏡刀あればその徳ある。これを汝小貸づれ。信乃より代告され。認る。疑ふ。人のあぬ。これなり。主入夫婦の謀る所。この櫛一文字ハ和君と。和君を牛一遣ふ。あふ。偏は亡んと。小あり。この桐一文字ハ和君の祖父匠作の像見。こをこ。人。こ。信乃ハ左右の。受。つくと見く額藏がほとり小置。嘆息。祖父ハ忠義の武士と。その女児。こ。伯母ハ。腹。二親の。叔伯

母小。選。人。表裏。仇の家。置。か。謀。さ。け。皆。賜。り。父。末期の教訓。こ。叔夫婦。改め。実小汝を。亦誠心。仕。養育の恩。小報へ。又その害心。已。運。御。小。宝刀を抱。五。七。年。養へ。汝。大塚氏の嫡孫。墓。六。職。禄。ハ。祖父の賜。その禄。よ。人。る。伯母夫の恩。ハ。報。去。そ。不。い。へ。の。理。を。と。の。今。小。符。合。を。先。見。か。ま。灼。然。大。人。ハ。九。夫。は。あ。九。年。の。同。居。は。衣。食。を。野。指。の。田。園。を。横。領。せ。こ。が。刀。は。帶。る。物。の。な。け。を。彼。人。の。禄。を。食。あ。今。と。れ。ら。の。ハ。身。退。く。は。潔。且。こ。の。宝。刀。幸。小。護。て。失。ふ

手は何ぞを歎れ誰ぞ恨ん天運ふ小循環く青雲の志を成るべき
時節到来せり。冀へ大川ぬ。共は許我へ系るよりあふとこまを力
く彼君を佐る。西管領も計る不足を。豈あふとやと額と合
る。びく小説勸き。額藏せし沈吟。和君のふハ勿論之某ハある。き
曩小母の終焉小杜官の残忍ある。を恨むべし。た當時某黄童
ある。勢ひいふもせん。其その家の小厮。せよ。遂に今日
到れり。あふとも一錠の糧一領の衣の外は定め給銀る。けふの思
みハ薄く。や恩義ハ高う。その家の糧を。人となりて主
後あり。非義非道。主の密吏を。引る。洩し。和君と
共は走る。其由亦不義の奴。かくて。大丈夫と。和君ハ許
我へ赴れ。其ハ。の。袂を。分ち。大塚へ。と。め。は。西件

の利あり。某非道の主人は。員を。又。路。の。心。操。昨。夕。と。竊。聞。く。
感。り。所。へ。怜。惻。と。い。ふ。婦。人。の。情。通。ふ。不。慮。の。行。ある。某。竊。これ。を。
資。る。為。は。謀。え。ん。如此。と。見。ハ。和。君。が。人。節。婦。を。棄。る。の。惡。評。ある。
斯。計。ハ。謀。後。某。明。く。地。身。の。暇。を。賜。主。家。と。辞。し。許。我。ハ。系。
ら。今。共。侶。は。走。る。勝。たり。亦。可。ら。と。密。語。ハ。信。乃。ハ。頻。感。佩。し。説。
得。る。理。あり。然。る。あ。ん。乃。ハ。日。れ。を。敷。む。と。還。ら。必。然。ある。と。詰。め。
莞。尔。と。笑。え。これ。ら。の。心。中。と。れ。某。ハ。足。少。許。の。傷。け。と。浅。癢。を。
負。る。如。く。嘲。弄。せ。ま。る。と。い。ふ。べ。れ。ハ。大。塚。殿。を。敷。む。と。せ。し。小。敢。な。く。と。殺。
立。ら。ま。る。と。輕。め。の。と。あ。ふ。と。斯。癢。を。負。ひ。ぬ。と。欺。ふ。あ。ハ。夫。婦。の。と。あ。
ん。只。某。ハ。任。せ。ま。と。他。る。の。中。に。説。示。せ。ハ。信。乃。ハ。ま。ま。と。感。謝。小。堪。む。や。
偽。癢。ある。ハ。ま。ま。と。あ。ん。乃。ハ。傷。さ。せ。る。心。を。限。り。ま。ま。と。推。辞。ハ。婦。人。の。仁。と。

せれん教ふ情ゆづとのふ額藏致びや。密談既果し。あめく衣を引被
ち。要時寝ふ就はけり。

第廿六回

權を弄り墨宦督夕を促さ
殺戮示して頑父再離孤羞む

や曉この鯨音ふ驚き。西人齊一起あつ。支度形の如く整へて。
いそろ旅宿をせし。有繫別の惜れハ額藏ハ天の明果る。信乃を
送りんとく。許我のうへ進んとく。信乃ハ額藏を送るんとく。江戸のうへ還
らんとく。仰慕と辞讓はる。東天をふけ。今ハ送ふより。事大
そ。列松の蔭は立。額藏声を低く。和君許我へ赴れ。事大
く。成就せん某嘗人ハ問ふ。結城里見の諸大將ハ元来許我殿の御
方あるとも。各自國ハ在るより。只將足の勢ハ張るのみ。獨横堀史

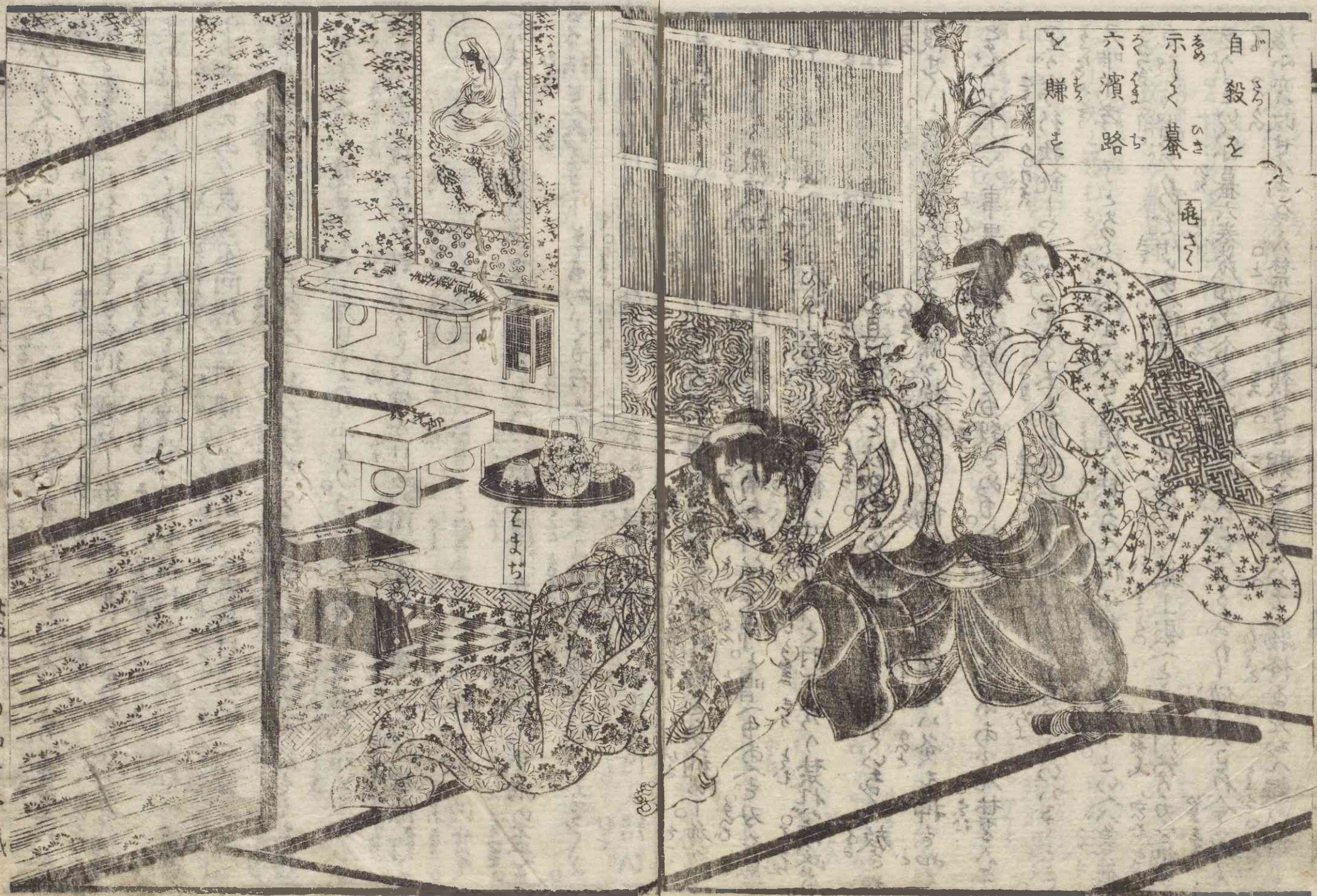
在村ハ成氏朝臣の家宰あり。賞罰黜陟この人の隨意せむ。といふと。と
と知る。めいひ。そのふてろ。あめ。と告れ。信乃ハうち。頭某也
そのふハ豫てより傳聞。彼ハ。由緒を速亡夫の遺志を披。この
宝刀を獻り。用ひ。又野水舟横り。或ハ左右のふ。阻
或ハ權臣能を招く。賄賂は。人を用ひ。速ふ。祖父の後を
い。仕へ。人の明君ハ臣を擇み。使ふ。今の世ハ臣を亦。く
君を擇み。用ひ。身を主人と欲する。地許我殿の。限
へ。時宜ハ任せん。と。同。額藏感激。現。言。兼あり。
志氣ある。誰か。願ハ。竊ハ。消息。その進退。を。せ
某も。遠く。再會を。期。と。信乃ハ。左。右。ふ。と。
直。然。袂を。分。盛暑。烈。ふ。愛顧。を。と

親のかしめられた片ありひゆと侍る。是は雅なり。時ひ名づけしものあり。あつ後といふせん渠も親の横死を恨む。年来大人を慕ふ。仇と冤へ。心小刃を磨ぐとく。その大悪心漸發覺て人をもく。隨ふ里の衆人。疎れ。大塚の住ひ叶を許我へ。偽り。實へ逐電あつ。より前夜は神宮河ある漁舟竊は大人と突落。その身も續く跳入。推沈んと。一とも。揖取の資ふ。大人ハ恙あり。と。ふ。行ひの駄賃とせん。あつん。母が。虚言。疑。額。選。渠は同。骨肉の伯母恩高。伯母夫は弓を。鳴呼の癖者。一宵も俱寐せぬ。その名。妻を。ふ。虎狼。も。偽夫。操を。病煩。二親。苦勞を。負女といえや。の道理を。疾。絶。彼畜生。百倍。見。美男子。遣嫁せん。めん。告。その。別。人。月。宿。陣代。殿。上。宮。六。本日。めん。懸想。相。心。属役の軍木。めん。その。上。の。輕。重。ハ。被。挑。灯。と。洪。鐘。熟。談。一家の僥倖。よ。年。波。の。二。親。信。逐。電。今。の。世。二。才。見。でも。慾。を。ぬ。は。る。巧。は。の。濱。路。ハ。忽。地。膽。怯。堪。や。と。は。沈。む。胸。を。板。屋。の。玉。散。

美男子小遣嫁せん。めん。告。その。別。人。月。宿。陣代。殿。上。宮。六。本日。めん。懸想。相。心。属役の軍木。めん。その。上。の。輕。重。ハ。被。挑。灯。と。洪。鐘。熟。談。一家の僥倖。よ。年。波。の。二。親。信。逐。電。今。の。世。二。才。見。でも。慾。を。ぬ。は。る。巧。は。の。濱。路。ハ。忽。地。膽。怯。堪。や。と。は。沈。む。胸。を。板。屋。の。玉。散。

てふもつ。慾つ。因成。も。を。と。う。ち。と。思。ふ。あ。ん。が。み。ふ。道。を。ぬ。姫。目。縁。を。
結び。情。由。え。も。ね。恨。も。せ。ん。世。の。常。言。小。親。の。心。を。子。に。え。と。い。の。成。安。
と。と。総。角。より。養。育。せ。信。乃。が。真。の。人。な。る。何。煩。悩。を。殺。さ。ま。き。又。も。好。と。
思。ひ。夫。と。憑。む。あ。ん。が。み。の。親。は。女。太。が。あ。る。れ。秋。渠。が。る。ハ。恨。む。甲。非。太。の。
既。は。信。乃。が。と。う。と。う。と。て。陣。代。敷。の。懸。壁。を。推。辞。小。難。れ。の。詰。の。縁。談。長。兄。
物。大。心。纏。ま。巨。樹。の。蔭。大。必。要。る。否。と。い。く。が。身。を。と。る。と。忽。地。妻。子。小。
崇。あ。ん。あ。ん。が。心。ハ。あ。る。後。も。當。坐。逃。れ。小。美。引。ハ。け。の。亭。午。の。る。る。に。
聘。礼。物。を。と。贈。ら。ま。且。客。分。う。迎。と。ん。と。本。日。を。促。を。縁。家。の。性。急。あ。ん。
が。心。む。と。り。今。小。至。く。変。改。さ。る。と。も。そ。成。さ。ま。小。許。され。ん。や。臂。殿。ハ。
陣。代。り。媒。妁。ハ。属。役。と。い。び。怒。ぶ。この。一。郎。を。空。巢。は。せん。易。う。べ。六。
十。小。及。び。一。家。の。滅。亡。も。命。運。大。あ。る。と。妻。を。殺。され。子。を。殺。され。く。

さ。是。亦。死。く。ハ。竟。ふ。益。あ。る。さ。は。覺。期。を。究。め。り。聘。礼。物。を。受。納。め。一。種。忍。と。
い。い。と。が。鰥。腹。切。る。外。ハ。術。も。あ。る。南。無。阿。彌。陀。佛。と。唱。へ。あ。ん。が。み。を。見。
る。引。振。く。腹。ハ。突。立。人。に。たり。一。が。龜。條。ハ。吐。嗟。と。叫。く。肘。小。携。り。禁。れ。濱。路。も。
慌。忙。ひ。つ。あ。ん。憤。ハ。さ。る。も。且。この。刃。を。放。り。と。ハ。頭。を。う。ち。掉。と。い。く。放。さ。ぬ。
殺。せ。く。と。狂。つ。残。さ。る。と。龜。條。が。抱。縮。め。く。傷。を。見。え。り。濱。路。ハ。灸。を。押。さ。ぬ。
と。と。と。一。ハ。事。果。を。親。を。殺。さ。る。殺。さ。ぬ。も。あ。ん。が。み。が。心。を。と。る。あ。ん。が。み。禁。め。な。る。
王。が。孝。弟。軟。鈍。や。と。叱。ら。ま。王。を。決。を。ぬ。り。拂。ひ。や。貞。女。と。い。は。る。と。と。
又。唯。不。孝。の。子。と。あ。る。い。づ。し。入。る。道。ハ。缺。る。仰。小。後。ひ。は。る。べ。一。ハ。龜。條。
点。び。く。賢。れ。め。も。あ。ん。が。信。乃。が。る。ハ。必。び。絶。く。敷。上。敷。と。う。け。引。け。り。刃。を。納。め。
と。う。と。い。の。小。墓。六。卷。あ。る。人。今。ハ。濱。路。ハ。使。さ。れ。る。あ。ん。が。み。信。乃。が。れ。今。死。ん。
後。小。変。改。せ。ん。と。禁。め。と。殺。せ。と。期。を。推。せ。バ。そ。ハ。物。体。を。死。ち。疑。ひ。仰。こ。



自殺を
示す墓
六濱路
と賺も

龜さく

大傳三車卷

大傳三車卷

廿五

後ひはる。よひの涙より。曇る声。を飲。て。依。沈。む。と。暮。六。の。合。
 笑。の。電。條。は。目。を。注。し。く。刃。を。納。め。披。れ。一。袈。を。合。さ。る。と。浮。雲。た。る。と。電。條。ハ。
 夫。の。ほ。ろ。り。立。立。て。あ。ま。り。て。泣。沈。ま。る。濱。路。背。を。搔。拊。り。又。湯。劑。を。勸。め。く。す。
 心。を。求。め。の。あり。自。は。不。回。答。の。阿。諛。の。言。ま。巧。は。慰。め。けり。か。く。二。親。送。代。は。
 通。宵。首。病。あ。る。一。く。死。ん。と。い。ひ。決。め。る。濱。路。ハ。絶。て。便。り。を。ね。む。ち。護。
 ら。ま。く。夜。を。曉。す。そ。の。十九。日。ふ。る。り。み。たり。これ。ハ。今。宵。ハ。背。敷。の。詣。ま。あ。ふ。と。
 幼。る。主。の。蔭。詰。ひ。誇。ら。う。と。奴。婢。が。口。の。ハ。周。ら。ま。ぬ。戸。障。子。の。拭。掃。除。釘。よ。
 紙。よ。と。罵。り。く。粘。を。搦。音。鉄。槌。の。打。ハ。響。音。く。と。壁。ふ。違。う。と。濱。路。ハ。そ。の。洩。す。て。
 二。ハ。浅。り。や。今。宵。の。る。を。こ。ろ。ふ。あ。る。月。二。親。の。隠。し。の。ハ。公。援。て。その。替。烟。の。盃。と。
 ち。結。せ。ん。あ。る。と。と。も。か。く。も。存。命。と。仇。一。夫。は。伴。と。と。豫。て。い。へ。う。く。は。
 う。ち。も。騒。が。む。け。く。稍。快。れ。面。色。と。素。と。一。髻。を。搔。拊。つ。臥。房。の。内。は。結。ひ。

直。と。髪。も。こ。の。世。別。の。櫛。の。齒。を。挽。く。ぬ。家。内。の。奔。走。と。の。黄。昏。ふ。ち。り。遣。ま。
 濱。路。が。調。度。の。り。あ。る。或。ハ。饗。膳。酒。食。の。儲。は。主。後。暇。を。た。た。る。電。條。ハ。そ。
 り。濱。路。が。臥。房。ふ。立。よ。う。と。そ。の。安。否。成。回。慰。め。み。ぐ。く。結。髪。せ。し。を。ん。く。
 心。の。中。竊。は。教。び。原。来。今。宵。の。臂。入。を。さ。と。と。せ。ね。と。も。洩。す。と。渠。あ。る。ま。ち。
 と。り。や。あ。ん。い。め。の。辞。は。似。け。あ。る。ハ。寔。は。少。女。と。ろ。ろ。う。か。て。ま。い。い。く。
 後。か。き。と。と。ハ。夫。ハ。密。語。め。と。暮。六。も。亦。飲。ひ。つ。軀。ハ。臥。房。の。い。ぬ。て。ん。ふ。
 現。と。り。揚。り。束。髪。ハ。西。施。が。病。る。凡。情。あり。化粧。ぬ。夏。の。富士。額。ハ。子。子。が。
 ら。ふ。え。あ。げ。り。三。國。の。臂。入。を。あ。ま。り。と。も。その。期。ま。い。告。ぐ。も。あ。ん。と。深。
 念。ら。他。る。ふ。紛。ら。く。又。外。面。へ。走。り。去。繼。ハ。そ。と。せ。は。你。ハ。れ。せ。ま。と。罵。り。又。焦。
 燥。ハ。人。拂。う。け。く。遣。使。ハ。眼。口。は。暇。あ。り。け。し。

里見八犬傳第三輯卷之五

